伊賀市議会だより

No.87
2026.11.1

＜主な掲載内容＞

特集 令和７年度決算審査　市の事業の成果と課題は？・・・・・・Ｐ２

９月定例月会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４
市政を問う　一般質問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７
活動報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P12
インタビュー　人と地域がつながってイキイキ活動紹介・・・・・・P16

行ってみよう 聞いてみよう！



友生地区住民自治協議会

左から	会長	松本　正己	さん
	市民センター長	瀧川　司篤	さん
	生涯学習支援員	町田　厚子	さん
	顧問	土永　豊美	さん
	市民センター事務員	安川　陽子	さん

関連記事は 16 ページ

令和7年度決算審査
市の事業の成果と課題は？

令和７年度伊賀市一般会計歳入歳出決算

質疑（決算常任委員会　9月14日～15日）

市長の名刺は適正ですか

問 市長の名刺の裏面に市長の顔写真、SNSのご自身のアカウントに繋がる二次元コードが掲載されています。「これに税金を使っているのはどうか」という市民からの問い合わせをいただいていますが、市の見解は。

答 法務統括監に確認し、問題はありません。ただ、ご指摘の疑われることについては、しっかりと是正していくというような対応をしていきたいと思います。

JR関西本線活性化の進捗は

問 令和7年度は観光列車「はなあかり」の実証運行が行われましたが、JR関西本線の乗客数にどのように影響しましたか。

答 輸送密度については、令和6年度が978人であったのに対して令和7年度は1,065人となり、増加しました。

病児保育事業はニーズに応えられていますか

問 病児保育事業の令和7年度の実績は。

答 利用人数は434名で、お断りさせていただいたのは126名です。



伊賀市の病児保育施設

昨年度開始したピロリ菌検査の今後は

問 中学3年生対象のピロリ菌検査について必要性を感じていますか。

答 令和7年度初めて行い、一次検査は実際受けられた方が対象者の67%と低い数字ではありますが、今後どのようにしていくか検討します。

道の駅あやまの今後は

問 道の駅あやまの利用者が減少している中で、リニューアルの検討という話がありましたが、具体的な検討に入っていますか。

答 令和8年度が指定管理の最終年度になりますので、検討していきたいと思っていますが、現在リニューアルを具体的に計画しているわけではありません。

木造住宅等耐震支援事業が活用されていない理由は

問 耐震診断の結果耐震基準を満たしていない住宅で、実際耐震補強をしているのが少ないですが、どのような案内をしていますか。

答 工事費がかなりかかるので、耐震補強まで至るケースは少ないです。耐震診断の結果をもとに、耐震補強の案内をしています。

学校設備改修の優先度は

問 小中学校の改修費用で、トイレの洋式化や特別教室の空調整備ができなかったのはなぜですか。

答 事業の優先度を考えた中で、今回は見送らせていただいたのが現状です。

討論（決算常任委員会　9月15日）

賛成 市政には幅広い業務があるので、民間が得意なことは民間に任せ、市役所の限られた人的資源を有効に活用していくことが重要です。また、限られた財源の中で優先順位をつけて配分しているにもかかわらず執行されなかった事業があった点については、予算計上の段階で十分な検討が必要であったと考えます。今回の決算審査を踏まえて、より適切な予算要求・査定・編成につながることを期待して賛成します。

賛成 決算審査を通じて各事業の成果や課題を確認しましたが、特に事業成果報告書における指標の設定と、その検証方法には課題があると感じました。指標は、市が何を課題と捉え、何を優先して解決しようとしているのかが表れるものであると考えるため、指標の設定や検証が不十分であったことは残念でした。今後は庁内横断的に指標の妥当性を検討し、事業の課題解決や推進につながるように事務事業成果報告書のあり方についての精査を要望して、賛成します。

令和７年度の市の事業を通じて、市民の生活は改善したのか。市の課題解決は進んだのか。課題を把握し、来年度予算に生かせるよう決算常任委員会で審議し、賛成多数で可決しました。

賛成 決算審査について納得できる内容でありましたが、さらに改善できる余地があったのではないかと感じる点や、昨年の改善後も十分に改善しきれていない部分が見受けられ、より一層の工夫によって無駄を省けるのではないかと考えます。来年以降の予算編成にそういったことをつなげることを期待して、賛成します。

反対 質疑を通じて評価できる点もある一方で、同和関連予算の執行、市営住宅の管理における生活困窮者への対応、学びの場における課題などいくつかの問題を指摘して、反対します。

討論（本会議　９月 30 日）

賛成 決算審査を通じて改めて問いたいのは、市は何を課題と捉え、何を優先して解決しようとしているのか、ということです。保育では、私的待機児童や保育士不足などの課題が現在の成果指標で解決に向かっているのかが見えません。学校では、予定されていたトイレの洋式化や特別教室の空調整備が実施されませんでした。限られた人たちだけを見る市政になっていないか。声を上げにくい人にも目を向け、常に検証し改善する市政であるべきだということを申し上げ、賛成します。

賛成 今回の審査では、各事業の成果を確認した一方で、当初の見込みと実績の乖離や不用額の発生など予算編成と執行のあり方について課題が見られました。限られた財源の中で必要な事業を着実に進めていくためには、事業の必要性や実施の見通しを十分精査し、適切な予算計上と計画的な執行に努めることが重要です。今回明らかになった成果と課題を、今後の予算編成や行政運営に反映することが必要であるということを申し上げて賛成します。

反対 物価高騰の中で、市独自の物価高騰対策が不十分です。物価高騰に対する家計支援としての公共交通通学定期券購入費助成制度は、市の独自施策として恒久実施すべきです。また、公平な教育権保障の観点からも、学校における伊賀市独自の負担軽減策を求めます。さらに、介護福祉の事務所に対するガソリン代支援策を市独自の物価高騰対策として求め、反対します。

監査委員の意見要旨

適正な執行状況であると認められる

令和7年度一般会計と特別会計を合わせた会計全体の実質収支は5億2,800万円の黒字となり、前年度を下回っているものの、概ね適正な執行状況であると認められます。

歳出については、一般会計の予算規模に対する執行率は93.3%で、前年度を0.5ポイント下回っており、不用額は2億5,500万円の減少となっています。市は、今後も少子高齢化対策をはじめ、都市インフラの老朽化の対応、行政サービスのデジタル化の推進などの社会変容を踏まえた取り組み等への対応が求められ、また、併せて、多様化する市民ニーズや地域課題を把握し、的確かつ迅速に対応するとともに、必要な行政サービスを将来に亘って持続的に提供していくことが求められます。これらのことから、限りある財源や人的リソース等を最大限に活用し、施策・事業の「スクラップ・アンド・ビルド」と「選択と集中」による、長期的な視野に立った効率的かつ効果的な事務事業の執行に努められたい。

（監査委員　岡森 正人・山口 康子）

審議した議案と各議員の賛否

○：賛成　×：反対　―：西口議員は議長のため採決に入っていません。

	件名	賛成：反対	議決結果	浅川 友和	内原 篤	大石 亮子	陶山 美佐	寺村 京子	山口 康子	北山太加視	西田 方計	森中 秀哲	福村 教親	森川 徹	北森 徹	西口 和成	福岡 正康	宮崎 栄樹	桃井 弘子	山下 典子	赤堀 久実	上田 宗久	百上 真奈	中岡 久徳
市長提出議案	令和７年度伊賀市一般会計歳入歳出決算の認定	19 ： 1	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	×	○
	令和７年度伊賀市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定	19 ： 1	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	×	○

全員賛成で認定した議案

市長提出議案	●令和７年度伊賀市駐車場事業特別会計歳入歳出決算の認定 ●令和７年度伊賀市介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定 ●令和７年度伊賀市サービスエリア特別会計歳入歳出決算の認定 ●令和７年度伊賀市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定 ●令和７年度伊賀市島ヶ原財産区特別会計歳入歳出決算の認定 ●令和７年度伊賀市大山田財産区特別会計歳入歳出決算の認定 ●令和７年度伊賀市病院事業会計決算の認定 ●令和７年度伊賀市水道事業会計決算の認定 ●令和７年度伊賀市下水道事業会計決算の認定

9月定例月会議

9月2日～9月30日（会議期間29日間）
決算・補正予算や条例の改正などを含む37議案と請願４件を審議

「議会のリアル」を映像で!
伊賀市議会チャンネル(YouTube)でご覧ください。

令和8年度伊賀市一般会計補正予算（第2号）

4億5,144万3千円を否決

阿山第２運動公園グラウンドの人工芝化予算を含む一般会計補正予算の審議の流れについて

審議の流れ

① 市長が補正予算案提出（原案）

↓

② 議員が修正案を提出（発議第４号）
（阿山第２運動公園グラウンドの人工芝化に向けた設計業務委託料５７６万９千円を減額）
・・・過半数の賛成で**可決**

↓

③ ②で修正された部分を除く原案
・・・過半数の賛成で**可決**

↓

④ 市長が再議の申し入れ
・・・議長を含む出席議員の２/３以上の**賛成なし**

↓

⑤ ①の原案　・・・**賛成少数で否決**

【歳出の主なもの】

○阿山第２運動公園グラウンドの人工芝化に向けた設計業務委託料	576万9千円
○大山田複合施設設計業務委託料	1,156万3千円
○中学校４校の屋内運動場の空調整備に向けた設計業務委託料	928万円
○災害復旧事業費	2億9,221万8千円

②修正案（発議第4号）

【議員提案理由（要約）】

人工芝グラウンドの整備については、長年にわたる要望があり、その必要性については理解しています。限られた財源の中で公共施設を整備する以上、将来の維持・更新まで見据え、市民負担を抑えながら、公共投資の効果を最大限に高める必要があります。

1. 実利用者のニーズの把握と反映
2. 事業効果を実現する体制
3. 持続可能な運営
4. 事業内容及び事業費の適正化

まず、その事業の骨格を具体化し、必要な改善を行った上で、実施設計に進むべきです。

④再　議

【市長提案理由（要約）】

本事業は、市民からの長年の要望に応え、正当な手続を経て計画に位置づけられ、財政的合理性を踏まえた、今まさにスピード感をもって実行しなければならない事業である。したがって、本事業費を削除した修正議決は、本市の公益を著しく損なうものであり、極めて不当である。

討論（予算常任委員会　9月24日）

賛成　中学校の体育館の空調整備は、スポーツ環境の充実のほか、防災の観点からも早急な対応が求められます。阿山第２運動公園グラウンドの人工芝化は、さまざまな効果やメリットがあると考え、賛成します。

反対　山田地区市民センターの複合化については、住民自治の活動拠点として広さや機能が適切であるのかという点に懸念があると考え、反対します。

審議した議案と各議員の賛否

○：賛成　×：反対　―：西口議員は議長のため再議を除く採決に入っていません。

件名		賛成：反対	議決結果	浅川友和	内原篤	大石亮子	陶山美佐	寺村京子	山口康子	北山太加視	西田方計	森中秀哲	福村教親	森川徹	北森徹	西口和成	福岡正康	宮崎栄樹	桃井弘子	山下典子	赤堀久実	上田宗久	百上真奈	中岡久徳
議員提出議案	議案第109号　令和８年度伊賀市一般会計補正予算（第２号）に対する修正	11：9	可決	×	○	×	○	○	○	○	×	×	○	×	○	－	×	×	○	○	○	×	×	○
市長提出議案	令和８年度伊賀市一般会計補正予算（第２号）（発議第４号で修正議決された部分を除く）	17：3	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	×	○	○	○	○	○	×	×
再議	議案第109号　令和８年度伊賀市一般会計補正予算（第２号）（発議第４号で修正議決された部分を除く）	11：10	否決※	×	○	×	○	○	○	○	×	×	○	×	○	×	×	×	○	○	○	×	×	○
市長提出議案	令和８年度伊賀市一般会計補正予算（第２号）（修正前の原案）	9：11	否決	○	×	○	○	○	×	×	○	○	×	○	×	－	×	○	×	×	×	○	×	×

※地方自治法第176条第３項の規定により、出席議員の３分の２以上の同意が必要

全員賛成で可決した議案

市長提出議案	●令和８年度伊賀市介護保険事業特別会計補正予算（第１号）	●令和８年度伊賀市水道事業会計補正予算（第２号）
	●令和８年度伊賀市後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）	●令和８年度伊賀市大山田財産区特別会計補正予算（第１号）

※10月16日の緊急会議で阿山第２運動公園グラウンドの人工芝化に向けた設計業務委託料を除いた補正予算について審議されました。

伊賀市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正

小規模保育施設などで専門職を保育士として配置可能に

賛成多数で可決

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など、障がい児の療育に関する知識や経験を持つ専門職を、一定の条件のもと、1人に限り保育士の配置人数に算入できるようになりました。

●主な質疑（教育民生常任委員会　9月16日）

問 伊賀市で専門職を算入する予定は。保育士に代えて配置する場合、保育の質をどう確保しますか。

答 現時点で対象となる人はいません。今後、対象者がいる場合は、保育の状況に応じて保育士と専門職の配置を検討します。

●主な討論（本会議　9月30日）

反対 理学療法士などの専門職を保育士数に算入することは、配置基準の緩和につながります。専門職の配置は重要ですが、保育士に代わるものではなく、保育士を配置基準に従って確保し、子どもの発達に応じた安全で質の高い保育環境を整えるべきです。

請　願

全員賛成で採択

●義務教育費国庫負担制度の充実を求めること

●教職員の欠員を速やかに解消する施策の実行および教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算拡充を求めること

●子どもをめぐる貧困対策の推進と就学・修学支援に関わる制度の拡充を求めること

●防災対策の充実を求めること

【請 願 者】　伊賀市ＰＴＡ連合会
会長　末廣 貴生　外2名

【紹介議員】　北山 太加視、西田 方計、森中 秀哲、宮﨑 栄樹、上田 宗久、中岡 久徳

【意見書提出先】　衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、文部科学大臣、内閣府特命担当大臣（防災）（「防災対策の充実を求めること」に関してのみ）

●主な討論（教育民生常任委員会　9月16日）

賛成 本請願は教育現場の課題を改善するために非常に重要です。国へ意見書を提出するだけでなく、教職の魅力を将来を担う子どもたちに伝える取組など、課題の根本的な解決に向けた検討が必要です。教育委員会、行政、議会が一体となって原因や改善策を検証するとともに、教育現場で起きている課題を市民に発信していくことを求めます。

議員発議

(仮称)大山田安定型産業廃棄物最終処分場設置等事業に関する決議

議会も市の判断への支持を表明

全員賛成で可決

令和8年8月26日、市は当該事業を「規制対象事業場」と認定しました。6,927名の署名を添えた要望書においても、市民生活の根幹である水の安全に対する深い懸念が示されており、議会として市の判断を支持することを表明するものです。

提出者：　福岡 正康　陶山 美佐　北山 太加視
森中 秀哲　北森　徹　桃井 弘子
赤堀 久実　上田 宗久

（要旨）

令和6年5月1日、伊賀環境サービス株式会社（仮称）大山田安定型産業廃棄物最終処分場設置等事業に関する申請が提出されました。伊賀市は審議会からの答申を踏まえ、当該事業が市民の生命及び健康の保護の観点から看過できない影響を及ぼす恐れがあるとし、市が「規制対象事業場」と認定した判断について議会も賛同するものであり、特に以下の点を重要な課題と認識しています。

1. 計画地周辺は市民の重要な水源地域であり万一の事態が発生した場合に水源へ及ぼす影響リスクへの懸念が、現計画では十分に払拭されているとは言い難いこと。

2. 市民の生命と健康を守るための「安全な水の安定供給」という、市民全体の利益、すなわち「公共の福祉」は、いかなる事業活動よりも優先されるべきであること。

水は市民の暮らしを支える基盤であり、次世代へ引き継いでいくべき、かけがえのない財産です。市民の代表である議会は、市民の生命、健康、そして安全な生活環境を守る責務を負っています。

以上の理由から、伊賀市議会は、伊賀市が下した判断を強く支持いたします。

●主な討論（本会議　9月30日）

賛成 水道水源への影響など、住民の不安が十分に払拭されていないことを重く受け止めています。市が条例に基づき規制対象事業場と認定した判断を支持し、市民の命と暮らし、豊かな自然環境を守る立場から、本決議に賛成します。

審議した議案と各議員の賛否

○：賛成　×：反対　―：西口議員は議長のため採決に入っていません。

件名		賛成：反対	議決結果	浅川 友和	内原 篤	太石 亮子	陶山 美佐	寺村 京子	山口 康子	北山太加視	西田 方計	森中 秀哲	福村 教親	森川 徹	北森 徹	西口 和成	福岡 正康	宮﨑 栄樹	桃井 弘子	山下 典子	赤堀 久実	上田 宗久	百上 真奈	中岡 久徳
市長提出議案	伊賀市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正	19：1	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	―	○	○	○	○	○	○	×	○
市長提出議案	伊賀市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正	19：1	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	―	○	○	○	○	○	○	×	○

全員賛成で可決（同意・採択を含む）した議案

市長提出議案	●委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正 ●伊賀市職員の退職手当に関する条例の一部改正 ●伊賀市認可地縁団体印鑑条例の一部改正 ●伊賀市一般廃棄物の収集、運搬、処分及び浄化槽清掃業の委託、許可、更新等（取消し及び停止を含む。）に関する審査委員会条例の一部改正 ●伊賀市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例 ●伊賀市立学校設置条例の一部改正	●和解すること ●指定管理者の指定 ●伊賀南部環境衛生組合規約の変更に関する協議 ●人権擁護委員候補者の推薦（米田 美紀子氏、百田 光礼氏、花垣 八千代氏） ●農業委員会委員の任命(中川 鮮成氏)
請願	●義務教育費国庫負担制度の充実を求めること ●教職員の欠員を速やかに解消する施策の実行および教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算拡充を求めること	●子どもをめぐる貧困対策の推進と就学・修学支援に関わる制度の拡充を求めること ●防災対策の充実を求めること
議員提出議案	●（仮称）大山田安定型産業廃棄物最終処分場設置等事業に関する決議 ●義務教育費国庫負担制度の充実を求める意見書の提出 ●教職員の欠員を速やかに解消する施策の実行及び教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算拡充を求める意見書の提出	●子どもをめぐる貧困対策の推進と就学・修学支援に関わる制度の拡充を求める意見書の提出 ●防災対策の充実を求める意見書の提出

「市長によるハラスメント疑い事案に関する調査特別委員会」（百条委員会）

証人10人を尋問し、事実関係を丁寧に検証

令和８年４月17日、「令和６年12月26日、市長からハラスメントを受けた」として、市職員１名が市議会議長に対して、申立書を提出しました。市議会では６月26日、事実関係を明らかにするとともに、特別職によるハラスメントに対する相談体制や救済制度の確立につなげるため、地方自治法第100条に基づく調査特別委員会（百条委員会）の設置を決議し、６月30日、第一回調査特別委員会が開催されました。

調査特別委員会ではまず、申立書に記載された内容を出発点として、実際に何があったのかを確認します。その後、それらの事実と証拠に基づいて、それがハラスメントに当たるのかを判断します。

委員会では、客観性・公正性を保つため、申立人である職員だけでなく、当時その場にいた職員や市長などから証言を求め、証言や資料を相互に照らし合わせながら調査を進めます。今回は８月６日から９月28日までの間に、申立人と市長を含め、10名の証人に尋問を行いました。

今後も調査の進捗や検討結果について、市議会として、市民のみなさんに対し、本件に関する情報提供を行なっていきます。（原稿作成10月５日）



市政を問う

一般質問

一般質問は、9月9日、10日、11日の3日間で、16人の議員が市政に対して質問をしました。その主な内容を掲載しています。
二次元コードからは、各議員の一般質問の動画（YouTube）をご覧いただけます。

大石 亮子（おおいし りょうこ） 議員

質問項目

- ●暮らしを支えるケアをジェンダー平等の視点から考える
- ●こどもの権利条例の制定
- ●阿山地域における生活圏を踏まえた地域交通



問 暮らしを支えるケアは誰が担っているか実態は見えていますか

食事の準備、子育て、介護など、ケアは生きるために欠かせませんが、担い手には偏りがあります。誰が担い、働き方や所得、その後の暮らしにどう影響するのか。男女別・年代別に明らかにし施策につなげるべきでは。

答 実態を把握しジェンダーの視点を政策に生かしていきます

ケアの実態は十分に把握できていません。国勢調査や各部局のデータで把握を進め、ケアを担うことが不利益につながらず、誰もが能力を発揮できるまちづくりにつなげていきます。

問 県境をまたぐ生活圏に合う交通を

阿山地域では、買い物や通院で甲賀市方面へ移動する住民が多く、免許返納後の移動手段が課題です。行政区域にとらわれず、生活圏に即した地域交通を検討すべきでは。

答 地域主体の協議の中で最適な交通を検討

地域の方からの要望書と署名をプロジェクトチームで共有し、甲賀市方面への交通手段も協議していきます。

問 「地域に根差した人権教育・啓発学習交流会」の目的は果たせたか

職員の皆さん、仲間とつながり、地域での人権啓発リーダーになってください。

答 各地域での活動に主体的に参画するリーダー育成が課題です

グループでの交流を通じ、地域づくりの基盤には対話による人権の学びが不可欠であることを認識できました。

問 民俗資料・郷土資料のリスト化と活用を

郷土の財産である資料類を整理し公開や展示に供してください。

答 早期のリスト化と有効活用の検討を進めます

一般公開や児童生徒の教材として見て触れられる機会を何らかの形で考えます。

問 「指針」改定や市長への意見書の提出を

農業委員等の意識や力量の向上を進め、「地域計画」にも積極的に関わってください。

答 「指針」改定後に意見書提出の予定です

各委員等に説明・意見聴取をし、「指針」の改定を進めます。また「地域計画」の現状を伝え、広い担当地域での活動の下支えをしていきます。

西田 方計（にしだ みちかず） 議員

質問項目

- ●人権啓発リーダー
- ●民俗資料類のリスト化
- ●農業委員会活動
- ●公共交通の営業努力
- ●通学定期券等助成制度の継続を



森中 秀哲（もりなか ひであき） 議員

質問項目

- ●伊賀市の交通空白地域をゼロに



問 「バス停がある」だけでは不十分

「土日祝・夜間は来ない」「昼間も便の間が５時間」。バス停が近くにあっても、市内には実質的な交通空白が存在します。地域社会を支え、家族の送迎負担を軽減するため、「交通空白実質ゼロ」を市の政策目標に掲げましょう。

答 空白解消を計画に位置付け

新しい地域公共交通計画にも空白解消を位置付け、取り組みます。

＊AIデマンド交通
AIを活用し、予約に応じて柔軟な運行ルートを設定し、必要なときに利用できる乗り合い交通

問 AIデマンド交通で空白解消を

AIデマンド交通*を活用して交通空白を大きく改善した兵庫県丹波篠山市の例に学び、市が交通網を主体的にマネジメントし、AIデマンド交通など市域を面的にカバーする交通手段を積極的に導入する施策に転換すべきです。

答 早くなんとかしたい（市長）

市内の交通空白は、早急な改善が必要だと認識しています。来年度、庁内横断的プロジェクトを立ち上げて検討する他、空白解消に注力できるよう担当部門の体制強化も図りたいです。議員が紹介した丹波篠山を担当部門で視察に行きたいです。

☆一般質問☆　本文は、質問議員が執筆し、質問議員の責任において掲載しています。

一般質問

浅川（あさかわ） 友和（ともかず） 議員

質問項目

- ●子どもが本と出会う学校図書館へ
- ●持続可能な公立保育のあり方
- ●地域全体で支える持続可能な農業



問 読書意欲の向上につながる機能を

学校図書館システムに、本を探し、新たな本と出会う機能も検討できませんか。

答 令和９年度に向け、システムの導入と機能を検討

児童生徒の端末から新着図書やおすすめ本を閲覧し、蔵書を検索できる機能を検討します。

問 公設公営のその先に、どんな保育をめざすのか

規模や機能、地域との関係も含め、どのような公立保育をめざしますか。

答 めざす保育・幼児教育の理念から出発

施設や人件費の抑制ではなく、実現したい保育・幼児教育の理念から考えます。公立保育所を一つの柱として守り、公立・私立がともに築いてきた伊賀市の保育を発展させます。

問 今いる農業者が営農を続けられる支援を

農家や集落営農が５年後、10年後も営農を続けるため、どんな支援を検討していますか。

答 農業機械の購入・修繕への支援を検討

農業従事者不足を課題とし、集落営農への機械購入補助と、小規模農家の機械購入・修繕費の負担軽減を検討します。

問 職員が意見の言える環境を

市が策定した「共感による公共マネジメントパッケージ」には課題に対する解決策だけを示すのではなく、課題解決の検討プロセスを共有する必要があるとしています。さらに、めざす姿と現状の差を明らかにし、行政課題を洗い出し、分析し、原因を明確化し、解決策を導くまでのプロセスを可視化するとしています。これは、市民に対してだけの話ではなく、行政組織においても同じことが求められると思います。

職員との共感、対話、意思形成のプロセス、組織としてのガバナンスが大事だと考えます。そのためにも、職員が市長と異なる意見も言える組織であることが重要だと思いますがいかがですか。

答 引き続き議論します

市の意思決定は、関係部における徹底した協議や庁内会議での重層的な合意形成、適法性の確認等を経ています。引き続き、職員の皆さんと議論しながら市民の皆さんの幸せのために公約の実現に取り組んでいきます。

赤堀（あかほり） 久実（くみ） 議員

質問項目

- ●「共感による公共マネジメント」と市政運営



福岡（ふくおか） 正康（せいこう） 議員

質問項目

- ●大山田安定型産業廃棄物最終処分場（仮称）



問 （仮称）大山田安定型産業廃棄物最終処分場設置等事業（以下当該事業という）に対する伊賀市の対応は

伊賀市住民7,687名の反対署名をうけ、伊賀市は、当該事業を規制対象事業場であると認定しました。認定するに当たっての伊賀市の判断の根拠、今後の見通し、三重県条例手続きにおける住民への支援を教えてください。

答 審議会からの答申を最大限尊重し、最も重要な根拠としました

加えて①守るべき公益の優位性、②事業計画者の説明責任の欠如、③地域との協調関係の欠如の三点から独自の評価をしました。審議会からいただいた事実認定を土台とし、伊賀市長として伊賀市民の未来にそなえて、公的・行政的な観点から踏み込んだ評価を加えました。

三重県条例に基づき事業者と地域住民で意見書と見解書のやり取りをしています。意見書作成がスムーズになるよう市としてできる支援をしていきます。

☆一般質問☆　本文は、質問議員が執筆し、質問議員の責任において掲載しています。

一般質問

陶山（すやま） 美佐（みさ） 議員

質問項目

●家族介護者への支援



問 家族介護者の実態と負担をどう捉えていますか

在宅で要支援・要介護、認知症の方を介護する家族は老老介護や多重介護、仕事との両立等、さまざまな状況があります。介護者の負担を市はどのように捉え、支援を行っていますか。

答 関係機関と連携し介護者を支援します

家族介護者を統計的に把握することは難しいものの、地域包括支援センターやケアマネジャー、家庭訪問などを通じ状況把握に努めています。

問 限界になる前に支援につなげる仕組みを

介護する家族が限界になる前に、専門職による支援や心のケア、アウトリーチ、地域で顔の見える関係をつくり、「困る前に気づき、つなぐ」地域づくりが必要ではないでしょうか。

答 次期計画に介護者支援を盛り込みます

次期「高齢者輝きプラン」に介護者支援の充実を施策の一つとして位置づけ、介護者の負担軽減、レスパイトケア*、関係機関と連携し、早期発見・支援などを盛り込み安心して暮らせるよう取り組んでいきます。

＊レスパイトケア
介護者等が一時的に介護から離れ、休息を取るための支援

問 市長の公務出張における旅費等の適正性を問います

市長の出張に伴い、自家用車で津駅まで移動した際の駐車料金が公費支給されています。旅費の適正な執行という観点から、その根拠となぜ最寄り駅をJR 新堂駅ではなく津駅を起点としたのかを伺います。

答 市長の私用車は公用使用車輌として登録しており、駐車料金の支給に問題はないと考えます

津駅の利用は、JR新堂駅から亀山経由で向かう場合より30分以上短縮でき、「旅費事務の手引き」でも認められています。

問 市長の人権意識と説明責任を問います

週刊新潮で報じられた過去の部落差別発言について、市長としての説明責任を果たすべきではありませんか。

答 記事については、いわれのない誹謗中傷であり、関係者の皆様にご迷惑はかけられないとの観点から、この件に対し言及はしません

引き続き人権尊重のまちづくりを掲げ、市民の皆様、職員にも高い人権意識を持っていただくように努めてまいります。

福村（ふくむら） 教親（のりちか） 議員

質問項目

●週刊誌報道への対応と市政への影響
●市長の公務出張における旅費等の適正性
●市長の人権認識と説明責任



桃井（ももい） 弘子（ひろこ） 議員

質問項目

●防災教育への「防災ＨＵＧ」導入
●持続可能な市政運営



問 防災ＨＵＧを導入すべきでは

防災ＨＵＧは避難所運営を疑似体験することで、他者への配慮、地域との協力、課題解決力を育てることができる有効な教材です。現在導入していない学校へは防災ＨＵＧを導入すべきでは。

答 防災ＨＵＧの学習も取り入れるように各学校へ呼びかけます

防災ＨＵＧだけに限らず、防災について様々な学習をしていきます。

問 共感による公共マネジメントパッケージに実行計画を策定すべきでは

スクラップすることは非常に難しいとは思いますが、厳しい財政状況であるので進めていくべきです。現在、共感による公共マネジメントパッケージには実行計画の記載がありません。アクションプランや集中改革プランを策定すべきでは。

答 年内に策定が進むよう努力しています

一つずつの事業について具体的に策定をしていき、行政経営改革する方向性を明記します。

☆一般質問☆　本文は、質問議員が執筆し、質問議員の責任において掲載しています。

一般質問

北山（きたやま） 太加視（たかし） 議員

質問項目

●スポーツ大会に出場する選手への助成



問 伊賀市はスポーツ競技の選手を応援する制度を見直しませんか

答 伊賀市スポーツ協会による競技人口調査では、屋内競技732人、屋外競技3,184人です。今後も制度が効果的となるよう研究します

伊賀市は、平成26年から「伊賀市スポーツ大会出場者に対する奨励金交付要綱」を定めて、市民のスポーツ活動を奨励し、競技力の向上とスポーツ振興を目的に交付を行っています。

対象は、国民スポーツ大会やインターハイ、全国中学校体育大会などに出場するアマチュア選手です。

奨励金は個人出場の場合、国際大会が５万円、アジア大会などその他国際大会１万円、全国大会が５千円、団体の場合上限は10万円、また、同一年度内で1回受けることができます。

令和7年度の交付件数は66件、総額72万円で、個人の国際大会出場1件、全国大会出場48件、団体が17件でした。

現在、制度への意見は寄せられていませんが、近隣自治体における制度の状況を改めて調査研究を行います。

百上（ももがみ） 真奈（まな） 議員

質問項目

●カーボンニュートラル社会を見据えたごみ処理
●切れ目のない子どもの発達支援
● 2026 年の介護保険法改正



問 子どもの発達支援の現状は

0歳から18歳までの子どもの発達支援について、関係する機関との連携や情報共有の現状をうかがいます。

答 関係機関が連携し切れ目のない支援を推進

５歳児発達相談の情報を基に年長時に福祉部局や教育委員会、児童発達支援センターの専門職員が市内すべての保育所を巡回しています。就学前には特性に関する情報等を各学校に丁寧に引き継ぎ就学移行支援に力を入れるなど、保育所から小学校、中学校へと関係機関、専門職員が緊密に連携し切れ目のない支援を推進しています。

問 発達支援の課題は

答 高等学校との支援体制強化です

課題のある生徒への支援について中学校卒業後の関係機関との連携、情報共有が十分でないことです。今年度以降、伊賀圏域の高等学校と協議の場を持ち発達支援に留まらない多角的な連携体制の構築を進めたいと考えています。また、関係機関がより効果的に連携し情報共有できる仕組みづくりを考えてまいります。

宮﨑（みやざき） 栄樹（えいき） 議員

質問項目

●青山高原を次世代につなぐ
●伊賀南部クリーンセンターの危機的状況をどう乗り越えるか
●人と猫の共生



問 青山高原の活用をどう進める

青山高原には多くの主体が関わっています。県、市、地域、民間で課題や方向性を共有し、連携して取り組む必要はありませんか。

答 具体的な連携のあり方を模索します

地域や関係機関と課題や方向性を共有し、意見交換を進めていきます。

問 伊賀南部クリーンセンター、危機的状況をどう乗り越えるのか

老朽化が進む中、2034年まで安定したごみ処理をどう確保するのか、市長に伺います。

答 市民の安心安全を守るため、責任を持って運営します

20～30億円の巨額投資には懸念があります。安定稼働策を早急に取りまとめ、組合の管理者である名張市長と協議していきます。

問 猫の多頭飼育、個別ケースへの対応は

多頭飼育は福祉や生活環境など、様々な問題が複雑に絡みます。個別ケースに応じた連携が必要ではないでしょうか。

答 踏み込んだ連携には課題があります

今回の質問を契機に、関係者と改めて話し合い、より踏み込んだ連携を進めていきます。

☆一般質問☆　本文は、質問議員が執筆し、質問議員の責任において掲載しています。

一般質問

内原 篤（うちはら あつし）議員

質問項目

●巨大地震から市民の命を守る防災・減災対策



問 無料診断対象外住宅への支援は

巨大地震に備え、1981年6月から2000年5月までの木造住宅に対して耐震相談などの支援はできないですか。

答 相談対応の充実をはかります

熊本地震や能登半島地震では、1981年6月以降に建てられた木造住宅にも被害が確認されています。伊賀市でも調査研究を行っており、今後、対象住宅数の把握や新たな支援制度の創設に向けた検討を行うとともに、不安解消につながる相談対応を行ってまいります。

問 地震に備える家具固定支援は

巨大地震に備え、家具の固定が難しい高齢者や障がいのある方などに、制度の案内がより確実に届くよう工夫できないですか。

答 制度案内が届く取組を検討してまいります

市では、65歳以上の高齢者のみの世帯や、身体障害者手帳等をお持ちの障がい者のみの世帯などを対象に、家具固定事業を行っています。来年度は、福祉部局と連携し、対象家庭に周知啓発を行うなど、さらに支援が行き届く取組を検討してまいります。

上田 宗久（うえだ のりひさ）議員

質問項目

●「ごみ処理広域化」

●伊賀市学校みらい構想



問 「ごみ処理広域化」の進捗は

名張市では「公民連携」事業が発表され、当該地区、近隣地区住民からは疑問の声もあります。施設の操業期限が迫る中、３自治体での「ごみ処理広域化」の今後のスケジュールをお尋ねします。

答 速やかに事業が実施できるよう準備を進めています

現時点で各自治体が望ましいとする事業方式はそれぞれ異なっているため、秋頃を目途に開催する協議会で再度協議することになっています。

問 「伊賀市学校みらい構想」から見た教育委員会の考えは

伊賀市の年間の出生者数は400人を下回っています。今もスクールバス通学の多い周辺部の複式学級のある小規模校が増えることが予想されています。それらの小規模校を特認校で残すのか、児童数の多い学校に統合するかが問われています。もちろん保護者や地域の考えを聞くことは重要ですが、教育委員会の方針はいかがですか。

答 望ましい学校・学級規模で学ぶことを基本としています。

森川 徹（もりかわ とおる）議員

質問項目

●にぎわい忍者回廊はにぎわった？

●住民自治協議会（まちづくり協議会）誕生から 20 年を経て



問 万川集海の入り込み客数と収支は

当初の目標は忍者体験だけでも１日244人でしたが達成できていますか。また約65億円（SAKAKURA BASEを含む）を先行投資していますが収支はどうなっていますか。

答 5カ月間で36,166人でした

令和８年４月から８月までの５ヵ月間の総入込客数は36,166人でした。事業者からは経営的には黒字には至っていないと伺っています。

問 今後どうしますか

厳しい状況であってもこの施設を核として中心市街地を盛り上げていかなければならないと思いますが。

答 おっしゃる通りです

にぎわい忍者回廊や芭蕉翁記念館、旧上野ふれあいプラザ跡地活用をどうするか等を考え、市街地エリアを作ると同時にもう少し広域な地域を繋いで伊賀地域の活性化に繋げ、市街地エリアの皆さんが生業として儲けていただき、そして人が行きかうような街をめざしていかなければいけないと思っています。

☆一般質問☆　本文は、質問議員が執筆し、質問議員の責任において掲載しています。

一般質問

寺村（てらむら） 京子（きょうこ） 議員

質問項目

- ●俳句を、「表現と対話」を育む学びへ
- ●中心市街地に、これから求められる公共施設とは？
- ●幼児教育・保育ビジョンのアンケート、なぜ「民営化」を問う？



問 俳句を「表現と対話」の学びへ

俳句を「表現と対話」を育む学びとして、どう捉えていますか。また、教員の経験や得意不得意に左右されず、子どもたちが俳句を楽しめるよう、どう支えますか。

答 先生も楽しめる俳句教育に

俳句を通じて、自分の感じたことを言葉で表現し、他者の異なる感じ方を認め合う学びを、「THE kukai」の活用や教員自身も楽しめる研修、地域との連携を通じて支えます。

問 中心市街地、施設ごとでなくまち全体で

美術博物館構想を見直す中、個々の施設から考えるのではなく、旧上野ふれあいプラザ、旧上野図書館などの公共空間について、必要な機能や公共施設・土地を横断的に考え、まち全体の将来像を描くべきでは。

答 中心市街地全体の将来像を示します

中心市街地に関しこれまで部署毎に描いてきた計画をつなぎ、庁内横断で議論を進めます。今後は市民の皆様との対話を重ね、官民連携によってまち全体のグランドデザインを描いていきます。

活動報告 行政視察

議会運営委員会　7月8日（水）

《大規模災害が起きたとき、議会や議員はどう動くのか。》

視察先：兵庫県芦屋市議会
視察内容：議会機能継続計画の策定及び運用状況

議会機能継続計画（議会 BCP）を策定し、毎年訓練を行っている芦屋市議会を視察しました。

芦屋市議会では、阪神・淡路大震災の経験も踏まえ、災害時に議員が地域で把握した被害や市民からの要望は、それぞれが行政へ伝えるのではなく、市内３つのブロックで集め、議会として整理して届ける仕組みを整えています。また、BCP を「作って終わり」にせず、地震や風水害などを想定した訓練を毎年実施。そこで見つかった課題を BCP やマニュアルの見直しにつなげています。

伊賀市でも、水害や土砂災害などさまざまな災害が想定されます。地域特性や起こりうる状況を具体的に想定しながら、災害時に実際に機能する議会 BCP のあり方を考えていきます。



議場での防災訓練を実施している芦屋市議会

教育民生常任委員会　7月14日（火）

《地域と学校がともにつくる学校づくり》

視察先：亀山市立川崎小学校
視察内容：地域との連携、学びの環境づくり

「学校みらい構想」に関する所管事務調査の一環として、学校施設の整備に地域や教職員の声をどう生かし、その関わりを完成後の学校運営や子どもたちの学びにつなげているのかを調査するため、川崎小学校を視察しました。

同校では、改築にあたり教職員や地域住民によるワークショップを重ね、実物大の教室を再現して広さや設備を確認するなど、具体的な意見を設計に反映していました。完成後も、コミュニティ・スクールを通じて、地域の文化や行事を生かした学習など、地域の力が子どもたちの学びにつながっています。

今回の視察から、学校づくりの計画段階から地域が関わることが、完成後も続く学校と地域とのつながりや、子どもたちの豊かな学びにつながることがわかりました。伊賀市でも、地域との関わりを大切にしながら「学校みらい構想」を進めていくために、コミュニティ・スクールをどう充実させていくのか、今後さらに調査を深めていきます。



校内にある地域活動拠点「ふれあい活動室」

活動報告

所管事務調査（総務常任委員会）

ハラスメントを許さない働きやすい環境をつくる条例へ

総務常任委員会では、ハラスメント防止条例の制定に向けて、当局と議論を進めています。

市役所だけでなく、市のさまざまな職場で働く市職員と、市長等・市議会議員を対象とする条例です

職員アンケートから見えてきた現状

※令和７年度実施　対象：市職員（会計年度任用職員、再任用職員、任期付職員を含む）

ハラスメントを受けたことがある



22%



アンケート回答**885**件（回答率41.1％）のうち**195**件で、過去5年以内に特別職・職員・市議会議員からハラスメントを受けたことがあるとの回答がありました。

受けた際に「何もしなかった（できなかった）」

142件



その理由として、「報復やさらなるハラスメントが怖い」「何も解決しないと思った」「相談先がわからない」などが挙げられました。

相談・報告後に「適切な対応が取られた」



24%

相談・報告した人のうち、「適切な対応が取られた」と回答したのは**24**%。相談した後の対応にも課題が見えてきました。

調査で見えてきた3つの課題

1 市長等・議員が行為者となる場合の調査・認定の仕組みが必要

市長等・議員が行為者となる場合に、第三者が事実関係を調査し、ハラスメントに該当するかを判断する仕組みが十分に整備されていません。

条例制定でめざすこと

外部専門家による「ハラスメント審査会」を設置

市長等・議員が行為者となる事案について、外部の専門家が事実関係を調査し、ハラスメントの認定を行う仕組みを設けます。



2 安心して相談できる窓口が必要

アンケートでは、必要な支援・制度として「匿名での通報制度」「相談窓口の設置と周知」などの回答が多くありました。



専門的な外部相談窓口を設置

行政内部の相談窓口に加え、ハラスメントに関する専門的知識を有する者による外部相談窓口を設けます。



3 相談後の対応につながる仕組みが必要

相談・報告した人のうち、「適切な対応が取られた」と回答したのは24％。相談した後、適切な調査や対応につながる仕組みが必要です。



相談から対応までの流れを明確に

相談・申出から報告、調査・認定、必要な措置までの流れを条例で定めます。また、相談したことなどを理由とする不利益な取扱いを禁止します。





ハラスメントを防ぐための取組も

研修・啓発による未然防止

市長は市長等・職員に、議長は議員に対して研修を実施し、ハラスメントへの理解を深め、未然防止に取り組みます。

ハラスメントのない、安心して働ける市の職場へ

ハラスメントを許さず、安心して働くことができる環境をつくるため、早期の条例制定をめざして、議論を進めています。

活動報告

意見交換会を開催しました

地域の声、議員と語ろう！

いがまち地域　7月9日　柘植地区市民センター

都市マスタープランと地域の将来像

都市マスタープランをテーマに意見交換しました。計画策定後、地域でどのような事業が実施され、何が変わったのか、その進捗が地域から見えにくいとの声があり、これまでの取組や成果を検証し、住民に分かりやすく示してほしいとの意見が出されました。

また、地域の拠点としての支所の役割や必要な予算・権限のあり方、中学校統合後の通学手段や通学路、柘植中学校跡地の活用、柘植駅のバリアフリー化、地域企業との連携などについても具体的な意見や提案が出されました。



これからの地域づくりを共に考える

大山田地域　7月17日　大山田福祉センター

産業廃棄物処理場・阿波診療所のこれから

大山田地区の3つの住民自治協議会合同の意見交換会を開催しました。約50名の方にご参加いただきました。

●産業廃棄物処理場

産業廃棄物処理場については、水道水源や環境への影響を懸念する声や、「市・県・議会が連携して対応してほしい」との意見が出されました。

● 阿波診療所

地域医療を守るため存続を求める声や、医療機器の整備を求める意見がありました。

その他は、公共交通や大山田複合施設についても意見が出されました。高校生の通学に必要なバスの便数や時間帯の改善、大山田複合施設の整備状況について、議会として進捗状況をしっかり把握してほしいとの意見が寄せられました。



大山田地域の声を未来に

島ヶ原地域　8月26日 島ヶ原地区市民センター

学校・消防・地域の担い手のこれから

●学校のこれから

「できるだけ地域に学校を残してほしい」という声がある一方で、「子どもにとってより良い教育環境も大切」との意見もありました。「学校みらい構想」をもっと分かりやすく説明してほしいとの声も出されました。

●消防・救急を身近な場所に

「できるだけ地域に近い場所に消防・救急の機能を残してほしい」との要望がありました。施設の老朽化が進む中でも、地域の安心を大切にして考えてほしいとの声がありました。

●地域を支える人が足りない

自治会や地域行事を支える人が減り、同じ人に負担が集中しているとの声がありました。「若い世代が戻ってきたい、住み続けたいと思える地域にすることが大切」との意見も出されました。



島ヶ原の未来へ、思いをつなぐ

上野地域　8月27日　ゆめが丘地区市民センター

防災・農業・地域の環境整備

●防災・地域の安全

避難所が浸水想定区域にあることや、避難途中に川を渡る地域もあり、「本当に安全に避難できるのか」との声がありました。高齢者の避難や避難所のトイレについても意見が出され、近隣地域や井戸活用の工夫も紹介されました。

●農業

農業を担う人の高齢化が進み、「10年後に誰が農業をしているのか分からない」との声がありました。農業機械や資材の値上がり、水路やため池の維持管理も大きな負担となっており、地域に合った支援が必要との意見もありました。

●地域の環境整備

草刈りや道路・河川の管理を担う人の高齢化、空き家の増加などが課題として挙げられました。有償の「環境サポート隊」や、大型草刈機を活用した取組も紹介されました。


市民の声が響き合う上野地域

令和8年熊本地震に対する義援金

伊賀市議会では、令和8年7月28日に発生した令和8年熊本地震で被災された方々へのお見舞いと、被災地の一日も早い復旧・復興にお役立ていただくため、全議員から募った義援金21万円を、10月8日付で九州市議会議長会が開設した災害義援金口座へ送金しました。

令和８年12月定例月会議日程（予定）

会議期間22日間

日	月	火	水	木	金	土
11/29	30 本会議（議案上程等）	1	2	3	4	5
6	7 本会議（一般質問）	8 本会議（一般質問）	9 本会議（一般質問）	10 各常任委員会（予算・決算を除く）	11 各常任委員会（予算・決算を除く）	12
13	14 各常任委員会（予算・決算を除く）	15 予算常任委員会	16	17	18	19
20	21 本会議（採決等）	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1/1	1/2

※本会議と予算常任委員会は午前10時から始まります。その他の各常任委員会は、本会議初日に決定します。
※日程は、変更になる場合があります。

本会議、予算常任委員会の模様は、午前10時からケーブルテレビで生中継しています。（再放送は午後７時から）また、本会議、各常任委員会、予算常任委員会の模様は、伊賀市議会チャンネル（YouTube）でも録画配信しています。ぜひご覧ください。

ご感想をお寄せください

議会だよりや議会のテレビ放送、YouTube をご覧になったご感想やご意見をお寄せください。

郵送 〒518-8501
伊賀市議会事務局
「議会だより感想」宛
TEL 0595-22-9687
E-mail gikai@city.iga.lg.jp
FAX 0595-24-7901

※伊賀市議会だよりの点字版・録音版を希望される場合は、上記までお問い合わせください。

感想フォーム

伊賀市議会 検索

議会がもっとわかりやすくなる！

傍聴席に字幕表示システムを導入しました

発言内容をリアルタイムで表示

AI音声認識システムを活用し、発言をリアルタイムで文字に変換して大型モニターに表示します。聴覚に障がいのある方だけでなく、すべての人に会議内容をわかりやすくお伝えすることを目的に導入しました。

すべての会議に対応

議場だけでなく、委員会室や全員協議会室で行われる会議にも対応しています。事前の予約などは不要です。



ぜひ傍聴にお越しください

※自動入力のため、一部誤変換されることがあります。

編集後記

「限界集落」ではなく「健康集落」として、いつまでもここで幸せに暮らしていきたい――。昨年の友生地区での意見交換会で、ある方が話された言葉が心に残っています。

その言葉から伝わってきたのは、この地域への誇りと、だからこそ、この地で最後まで暮らし続けたいという思いでした。

今回の取材でも、同じ思いを感じました。さまざまな課題を抱えながらも、どうすればみんなが幸せに暮らし続けられるのかを考え、試行錯誤しながら、人が集える場や機会をつくり続けている。その姿に、地域の穏やかな未来が見えるようでした。

（大石 亮子）

次号は令和９年２月１日です

発行：伊賀市議会　編集：伊賀市議会広報広聴委員会

人と地域がつながって イキイキ活動紹介

指定管理者制度を導入した住民自治協議会を紹介する第14回。農村地域と新しい住宅地が共存する友生地区。地域の魅力や活動、これからのまちづくりについて伺いました。

Q：友生地区の魅力はどんなところですか。

A：田園風景が広がる中でゆったりと暮らせ、市街地にも出やすい地域です。農村地域と新しい住宅地があり、それぞれ違った暮らし方をする人たちが一緒に暮らしています。
また、多くの文化財が残り、地域の歴史を学ぶ機会もつくっています。それが地域への誇りや愛着にもつながっています。

Q：地域のみなさんが顔を合わせる機会として、どんな行事がありますか。

A：毎年1月2日に新春マラソン大会を開催し、今年で第44回の大会を実施しました。距離別のコースやウォーキングコースがあり、小さな子どもから80歳代までの多くの方が参加しています。
「今年も正月が来たな」と感じる行事です。帰省した人たちも参加し、地域のみんなが顔を合わせる恒例行事になっています。

Q：秋には、にぎわいフェスタも開催されていますね。

A：毎年11月に旧友生小学校で開催しています。伊賀白鳳高校や地元の生産者にも参加していただき、防災体験や作品展示、コンサート、野菜の販売などを行っています。地域外から楽しみに訪れる人もいます。



地域内外から人が集う　にぎわいフェスタ



新春恒例マラソン大会

Q：日常的に人と人とのつながりをつくる活動には、どんなものがありますか。

A：高齢者が気軽に集まれる「いきいきサロン」や「ひだまりサロン」を続けています。参加者同士が誘い合い、お茶を飲みながら楽しく過ごしています。今年からは健康麻雀教室も始め、初めて麻雀をする人も参加しています。また、夏休みには子どもたちの居場所として市民センターを開放し、今年は俳句づくり教室なども開催しました。

Q：防災では、どのようなことを大切にしていますか。

A：平時からのつながりを大切にしています。そして区長さん方が日常生活で把握している地域の状況をベースに、住民相互で支え合う防災マップづくりに取り組んでいければと思います。

Q：これから、友生地区をどのような地域にしていきたいですか。

A：農村地域と住宅地があり、暮らし方や考え方が違うのは当然のことです。その違いを認めながら、地域づくりを進めていきたいです。若い人の中にも、地域のために何かしたい、ボランティアに参加したいと思っている人はいます。好きな時に、好きなことを、できる範囲で参加できるよう、これまでの活動を大切にしながら、参加しやすい形を考えていきたいです。一人でどうこうできることではありません。だからこそ、みんなで考えながら、これからの地域をつくっていきたいと思っています。



初心者も楽しむ健康麻雀教室